

第十七回鎌倉楽しむ会

日光世界遺産探索バス旅の資料

# 「東照宮の大造替」の考察

鎌倉楽しむ会  
企画責任者 清藤 孝

## 日光山よもやま話

東照宮が鎮座する日光山は、古代以来、山岳信仰が隆盛を極めた関東の一大霊場だった。日光山の歴史は、遠く奈良時代にさかのぼる。

開祖である勝道上人しょうどうしやうにんは、宇都宮の薬師寺に於いて受戒をし、弟子たちと日光山の開山を始めた。

天平神護二年(766)には、現在の神橋が架かっている大谷川だいやがわを渡ったところに四本竜寺(のちの輪王寺)を建立した。

これが日光山の始まりだといわれる。そこから、男体山(二荒山)の頂上に挑み続

けた勝道上人は、天応三年(782)、ついに山頂をきわめた。

延暦三年(784)には山麓の湖畔に神宮寺(中禅寺)を建て、弘仁元年(810)には、四本竜寺は万願寺まんがんじの称号を賜り一山の総号となった。

嘉祥元年(926)に、比叡山第三座主であった、栃木県は壬生出身の慈覚大師円仁じかくだいしえんにんが來山して、三仏堂・常行堂・法華堂などを創建した。以来、日光山は天台宗てんだいしゅうのもとで繁栄をみせることとなる。

鎌倉時代(1180~1333)には源頼朝みなもとのよりとむは、文治二年(1186)十五町の田地を寄進したと「吾妻鏡」に記されている。また、日光山万

願寺の祈祷感応条々によると、たびたび日光山に戦勝祈願をし、奉斎のための寄進を行っている。その後も、鎌倉幕府の手厚い庇護を受け、天皇家からは門跡もんせきを招いて皇族の座主ざすの制度も始まった。

室町時代(1335~1573)の日光山の所領は十八万石、五百余の坊があったといわれ、関東の比叡山といわれるほどの勢力を誇った。しかし、天正十八年(1590)の豊臣秀吉による小田原北条攻めの際に、日光衆徒は、小田原北条氏に加担していた壬生氏に組したため、北条氏の滅亡後は、その所領の大部分を没収され、日光山は疲弊していくこととなった。

## 東照宮の創建について

天下統一を完成させた徳川家康公は慶長十年（1603）に秀忠公に二代将軍の座を譲つたが、自らは大御所として駿府にて側近の本田正純などを活用し、院政をおこなっていた。徳川家康公は徳川幕府の永続と恒久平和のため全力をあげていたが、その一方で豊臣政権を壊滅させることとなる。

元和二年（1616）一月二十一日、駿河の田中城で鷹狩りに出かけ、その夜にわかに発病し、二十五日に駿河に帰城した。その後、小康状態になったが、四月になると病状は悪化し、自らの死期の迫ったことを悟つた家康公は二日頃には、本田正純、南光坊天海、

金地院崇伝を枕元に召して、死後の処置について指示した。その内容は、崇伝の日記に記されていることによれば、

「遺体は駿河国の久能山くのうさんに葬り、江戸の増上寺で葬儀を行い、三河国の大樹寺だいじゆじには位牌いはいを納め、一周忌が過ぎてから、下野しもつけの日光山にくわんに小堂を建てて勧請かんじようせよ」。

そして、神に祀られることによって「八州の鎮守ちんじゆになろう」と指示したとある。

四月四日には外様大名を病床に集め「現在のところ将軍秀忠がいるから、死後の心配はないが、もし将軍の政治に誤りがあれば、皆が代わって政権を担当せよ。天下は一人のものではなく、”天下は天下の天下”であるか

ら怨みに思わない」と明言したと伝わる。

元和二年四月十七日、家康公は死去すると、遺言に従い、直ちに久能山に「遺骸は西に面して安置」された。これは、西国の外様大名に睨みを効かせるといふのが通説であるが、久能山の位置は地図上では、北緯三十四度五十七分三十秒で、この線をたどれば京都に至り、この中に生誕の地・岡崎と鳳来寺が入っていく。

このことについては、学者先生の研究が盛んであるが、家康公の生誕について文献から抜粋してみます。

家康公の生母・於大おだいの方が、子授けの祈願を鳳来寺で行っていた。このお寺の本尊は

「峰の薬師」と呼ばれ、靈験あらたかな仏様とされていて「薬師如来」です。

「徳川実記」によれば、「家康公の父・松平広忠公は、若君のなきことをなげき、北の方（於大の方）と鳳来寺に子授けの祈願をした。七日目の満願の夜、夢に薬師如来が現れ、十二神将の内の寅神を授けると告げられた」と、家康公が鳳来寺の薬師如来の申し子であるとの靈験譚が記されている。

そして、家康公の誕生日は天分十一年（1542）壬寅の年で、時刻は寅刻（午前四時ころ）、そのとき、鳳来寺の峰の薬師の十二神将の中の寅神が忽然として姿を消した、との奇譚の伝承もあるとのことだ。

このことが、後に家康公（東照大権現）の本地仏は薬師如来であるということ、日光では「本地堂」で薬師瑠璃光如来を本尊としてお祀りしているのです。天井には「鳴き龍」が描かれています。

### 久能山から日光山への遷座

元和三年三月十五日、日光山において造営していた東照宮の社殿は竣工すると、久能山からの遷座が始まった。」

家康公の棺は、金の御輿で、供奉する行列は、騎馬武者三百騎、雑兵千人で、久能山を二月十五日に出発。東海道の平塚から、座間・府中・川越・行田・佐野・鹿沼を経て四月四日

には日光山に到着した。四月十七日は將軍秀忠も参列し儀式が行われ、ここに正式に日光東照宮が鎮座した。

何故、家康公は日光山への勧請を遺言としたのであろうか。これも一般的には知れ渡っていることですが、文献より抜粋してみます。吉野裕子博士の説。

① 陰陽五行説から、宗廟は王城の北がよいとされ、古代中国にもこの例が多いが、方角的に日光は江戸のほぼ真北に位置している。

② 天海大僧正、崇伝大僧正は仏教はいうに及ばず、神道・儒教・道教・陰陽道などあらゆる宗教に精通して、日光の宗廟は家康公

の生前から決められていたのではないか。

③ そこに集約されるのは「北斗星」であり、吉野博士によれば、伊勢神宮の内宮は北極星の神靈化としての太一たいいつと、外宮の北極星を巡る北斗七星とが習合たいいつされている。

④ 古代以来、北極星に対する思想・信仰は「北辰信仰」として我が国の宗教に影響を与えていること

⑤ 以上のことは家康公も側近の方々も北極星に対する思想・信仰には無縁でなかったと思われる。

⑥ 久能山の頂上から日光を結ぶ線上に富士山がある。「富士」は「不死」に通じ、久能山において神として蘇よみがえった家康公が

日光山に鎮座することは「不死の道」を通じて、永遠の存在になる。

このように見てくると、家康公が遺言において、死後の祀りの場として指定した「久能山」「日光山」は方位的に結ばれてくる。江戸と日光を結ぶ南北軸は「北辰の道」を形成し、久能山からは「不死(富士)の道」によって、この宇宙軸は連結するという「宇宙論」が秘められているのではないだろうか。

久能山にて祀られ、「不死の道」を通り、日光山で神として蘇よみがえり、江戸城(日本)を守護していくという壮大な構想を実現させたということではないだろうか。

## 東照大権現の由来

東照大権現の神号も、従来は南光坊天海と金地院崇伝との間で天海は「権現」、崇伝は「明神」号を主張し論争し、天海の「権現」号が採用されたと伝わっています。

これも、文献から、神号は最初から決まっていたという面白いものを抜粋してみます。

徳川幕府から、朝廷に神号の宣下を願う出たところ、二条関白昭実あきざねと菊亭大納言晴季はるすえが考案した「日本」「靈威」「東光」「東照」の四案が示された。最終的に幕府側が「東照」を選んだ。神号の候補が勘案された時期には、すでに「日光」に家康公の神靈を祀る社やしろが造営されることは決まっていたから、「日光

大権現」も考慮されていた。しかし、予定されていた場所には「日光権現」（現二荒山神社）が祀られていた。

最後には、八百万神の「天照大御神」の太陽のイメージからも考慮され、「東照大権現」と命名され、東照宮に祀られることになった。神号が太陽をイメージするので、その社殿は「きらきらしく」光り輝く装いとなり、それらの象徴的存在であるがゆえに、「陽明門（宮中十二門の内、東の正門の名）」も選ばれたのである。また、宮号の宣下は正保二年（1645）、後光明天皇より東照社に対して宮号が宣下され「東照宮」となった。その時の宣命には「元和三年に東照社が日光に鎮座

されてよりこのかた、国内も平穩で、皇室も安泰、また幕府の政治も安定して現在に至っている。これは、ひとえに東照社の神徳のお陰である。それゆえに、東照社を東照宮と称し奉る」と記されているという。

宮号が宣下されたことにより、翌々年からは毎年四月の例祭に朝廷より奉幣使が派遣されるようになり、日光例幣使は幕末の慶応三年（1867）まで二百二十年間続けられた。

### 東照宮の建築と彫刻

#### \* 建築 \*

元和三年（1617）に創建された日光東照宮の社殿は、今日の久能山東照宮とほぼ同じ規

模であったといわれている。祖父・家康公を熱烈に崇拝した三代将軍家光公は、大御所である父・秀忠公が没し、名実ともに幕府の全権を握ると、日光東照宮の全面的な建て替えを計画する。

造営奉行には秋元但馬守泰朝、設計施工は幕府の作事方大棟梁・甲良豊後守宗広・絵画部門は狩野探幽が担当した。

工期は、寛永十一年十一月から、わずか一年五ヶ月。「日光山東照大権現様造営御目録」に記されている大工・木挽など延べ約百七十七万人、雑役が二百八万人にのぼる。しかし、絵画・彩色・漆・金具・屋根の工事には、人数の記載はない。今日の修理の実情から試算

すれば、それらの仕事には延べ二百万人を要した計算になる。合計六百五十万人が働いたこととなります。

さらに、大名の御手伝いが命じられ、これに動員された役人の数は、延べ四十五万人にも及んだという。

総工費は、金五十六万八千両・銀百貫目。もろもろと考えれば、現在の貨幣に換算して約二千億円くらいとなるようです。

家光公は「費用はお構いなし」と命じたが、竣工直後に「総工費は概算で百万両」との報告を聞いて、「思ったより安くできた」と言ったという。その頃久能山の御蔵にあった家康公の遺金は二百万両。そのうち百万両

余が尾張・紀伊・水戸の御三家に分割相続されている。当然これとは別途にあったはずであるから、家光公にとっては、「たかが百万両」であつたかもしれない。

#### \* 彫刻 \*

東照宮の指定建造物五十五棟の内、木造の建築物は四十一棟あるが彫刻が用いられているのは、本社（拝殿・石の間・本殿）をはじめ合計二十九棟に上り、彫刻の総数は五百七十三体にも及んでいる。

主な建造物の中で、本殿が二千四百六十八体で第一位。次いで唐門の六百十一体。第三位は陽明門の五百八体である。

#### 「江戸期彫刻の粋を集めた陽明門」

我が国の社寺建築を代表する建造物である陽明門の彫刻は、動物や植物などの彫刻が随所に施されている。なかでも、神秘的な力を持つとされる霊獣や故事をあらわしている人物の彫刻は、ユニークです。また、陽明門の柱には、グリ紋と呼ばれる渦巻きの紋様が彫られているが、内側からの二本目の柱の紋様は下向きになっており、「魔除けの逆柱」と呼ばれている。

しかし、獣の顔を想像させるグリは、それ自体に魔除けの意味があるといわれている。建物は完成した瞬間から崩壊が始まるため、「家を建てるときは瓦三枚残す」（一部分だ

け仕様を変え、建物は未完成であるとする  
という言葉がある。そのため、逆柱は、未完  
成部分を残すことで、建物の長持ちを願う意  
味が込められている。

極彩色に彩られた陽明門ですが、あまりの  
華美さに驚くかもしれないが、この色彩は心  
理的効果を狙って計画されたとのこと。

東照宮には、表門から陽明門に至る石段の両  
脇に、さまざまな建物が建ち並ぶ。これらの  
建物に使われている一つ一つの色彩が陽明  
門で結実し、集合体を形成しているという。

さらに、朱、金、黒、群青、黄土に加えて、  
陽明門には効果的に白が使用され、門の内側  
が聖域であることをあらわしている。

絢爛豪華な彫刻に彩られた陽明門は、徳川  
家の権勢を象徴するだけでなく、聖域である  
東照宮の本殿を守る役割も果たしている  
ということ。

\* 陽明門に息づく彫刻たち \*

### ① 息

一見すると龍のように見える。しかし、竜  
の顔と比べると、ヒゲがなく、まるでブタの  
ように上唇に鼻孔がついている。名前も「い  
き」と読むのか「そく」と読むのか判明して  
いない、ミステリアスな靈獣。陽明門には三  
十体、拝殿の隅尾垂木と向拝にも各四体施さ  
れています。

### ② 唐子遊からこび

陽明門の上層高欄こうらんの彫刻は「唐子の知恵遊  
び」と呼ばれ、ジャンケン・竹馬・鬼ごっこ  
など、さまざまな子供の遊びが主題になっ  
ている。陽明門にこのような彫刻が刻まれたの  
は、楽しそうに遊んでいる子供の姿に平和の  
象徴を見出したためと考えられる。また、戦  
乱の世を治めて平和をもたらした人物こそ  
家康公であり、子供の遊んでいる姿を通して、  
家康公の偉業を暗示しているという。

### ③ 唐獅子

日本語では本来、イノシシ(猪)・カノシ  
シ(鹿)に対する、唐のシシ。文殊菩薩の乗  
り物として知られる。安土・桃山期には、絵  
画や彫刻にモチーフとして盛んに用いられ

た。おそらく、勇壮な唐獅子の姿が、武将たちに好まれたのであろう。

#### ④ 聖賢

東照宮では陽明門と唐門のみ人物彫刻が施されている。陽明門は百五十六体の人物彫刻があり下層の組物間には聖賢の彫刻がある。聖賢とは、儒教で理想とされる人物のことで、それぞれ徳川幕府の政治理念を表現している。

#### ⑤ 錦鶏

錦鶏とは雉などと混同されがちだが、尾羽がまつすぐで、長い冠羽があり、赤い腹部が特徴。鳳凰や孔雀の彫刻と並んで、よく目につく華麗な鳥である。形が同じで、全体に白

い銀鶏も数羽いるので探してみましよう。

#### まとめ

徳川家康公の遺言によって、日光山に「東照大権現」という「神」となり、天下国家を守護するという過程を追ってみました。寛永十三年(1656)完成した東照宮は、現代まで様々な角度から研究されている先生方々の文献により、古代中国の遠大な思想(宇宙論)が創建に注入されたことが臆気ながら理解できたようです。創建のプランの責任者「南光坊天海」と取り巻くブレイン。造営奉行・秋元但馬守泰朝、設計施工は幕府の作事方大棟梁・甲良豊俊守宗広、絵画部門

は狩野探幽達の壮大なプロジェクトが、それぞれの情報を共有し長期にわたる構想を、工事開始からわずか一年五か月という驚異的な工期で華麗に作り上げた見事さには、創建の意義の奥深さと畏敬を感じざるをえません。世界遺産登録建造物として国宝・重要文化財百三棟が荘厳な姿を現していますが、見えない部分に九十九%の先人達の知恵が埋蔵し、これからも少しずつ解明されていくと期待するものです。

以上

#### 参考文献

- 日光商工会議所・日光検定問題集
- 日光市ホームページ
- NHK国宝への旅6
- 日光東照宮の謎・講談社現代新書
- 日光歴史ウォーキング・水曜者
- 日光パーフェクトガイド・下野新聞社
- PCウエキペデア